

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

# JAPAN NOW

## 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第65号 発行日2009年7月24日

### Contents

9月に金沢でシンポジウム	1
横浜フォーラムの内容	2
霞が関ニュース、静岡空港見学	3
立教支部報告、COLUMN	4
世界遺産物語、新潟・水と土の芸術祭	5
城下町と観光、NEWSPOT	6
NPOからの提案、イタリア通信	7
お天気の話、編集後記	8



新しくなった金沢駅

### 巻頭言

#### 9月に北陸新幹線や観光振興でシンポ 金沢でJN協会と郷土発展振興会が開催

JAPAN NOW観光情報協会（松尾理事長）と郷土発展振興会（加藤愛恵会長）は9月25日、金沢市の「スカイホテル」で、石川県など北陸の観光振興と街づくりのためのシンポジウムを開く。松尾理事長、魚住北陸支部長（北陸鉄道社長）の主催者挨拶に続き来賓の泉谷珠洲市長らが挨拶する。このあとシンポジウムに移り、JR東海の須田相談役、日中友好協会の村岡理事長、加藤会長らが観光振興や住みよい街づくりについて講演する。またJN協会の白澤事務局長がリニア中央新幹線の実用化や北陸新幹線の長野・金沢間の工事の進展状況について講演する。北陸新幹線は平成26年度に長野・金沢間が開業し、首都圏と北陸が超高速鉄道で結ばれ時間の大幅短縮によって人と物の交流が活発になり、その経済効果が期待されている。会場で須田氏の新刊書「観光ガイドブック」が無料進呈される。

講演会のあと懇親会が開かれる。会費は3000円。定員は150名を予定。

#### 「開港150周年の横浜の魅力を探る」

##### JN協会、海事センターが講演会

JAPAN NOW観光情報協会は財団法人「日本海事センター」との共催により7月13日、横浜市のパシフィコ横浜で横浜開港150周年を記念し第6回観光・海事立国フォーラムを開き、約250人が出席し

て盛況のうちに終了した。フォーラムは「国際都市ヨコハマの魅力を探る」を総合テーマに開かれ、国土交通省の須野原港湾局長、JR東海の須田相談役、日本船長協会の森本会長が講演した。来賓として出席した中田横浜市長は「横浜は観光・海事立国として大変重要な都市である。私は7年前に市長に就任したが、当時は観光に無頓着だったので、民間と共同で観光政策に力を入れた」と挨拶した。講演のあと講師、来賓を囲んで懇親会が開かれた。（講演のあらまは2面に掲載）

総会では、会員の大塚ベバレジから飲料水が提供され、須田氏からは全員に著書の「新産業観光」が無料で配布された。



写真は中田横浜市長(左)と会場風景(右)

#### 超電導リニア、新型車両でテスト開始

##### 平成25年からは12両編成で実用化試験

JR東海は今年4月から山梨リニア実験線で新型車両を導入してテストを始めた。新型の先頭車両は鼻の部分がかこれまでの車両の35メートルより短い15メートルとなり、車体の構造も丸みを帯びたものから角型となり、営業用車両に近づいている。

JR東海は現在進めているリニア実験線の延伸工事が終わる平成25年から全長約42キロに延伸された実験線で12両の長大編成によるリニアカーの実用化テストを始める計画である。

## 世界のレベル目指して

### 横浜開港150周年を機に再開発

国土交通省港湾局長 須野原 豊氏

150年前に函館、長崎と同時に開港し世界有数の扱いを誇った横浜港も、最近釜山や上海に追い越され、地盤沈下の様相を呈している。扱い金額ベースで見ると、成田空港、千葉、名古屋港に次いで国内でも4位。



もともと港は、雇用や所得の創出効果を見るとき重要な“産業”であり、最近では観光の対象としても大きな意味を持っている。国土交通省は、こうした要素を考え横浜港を

スーパー中枢港湾と位置づけ平成16年から22年にかけて、アジアの大型港湾との競争力強化を目指しコストを30%引き下げ、世界の標準レベルに持って行くとしている。なかでも、このところ貨物輸送の主流になっているコンテナ船の大型化に対応する施設を充実させ、5年間で扱いを39%増やす計画を進めている。

同時に、港自体をオアシスとみなし、観光客の誘致も図るスポットともしたい考え。これは、世界からやってくるクルーズの乗客が日本上陸に当たって最初に接する場所でもあり、良い印象を持ってもらうという意味合いもあるのだ。

横浜港は、赤煉瓦の倉庫など歴史的な建造物を生かしながら現代の物流、人流に見合うように改良していく、それが今後とも重要港湾として生きていける道だと考える。横浜市民は、港の充実が街の発展に繋がることを認識していただきたい。

## 国際観光拠点に向け精神改革を！

### 鉄道と港の結びつきが観光客増加に

東海旅客鉄道相談役 須田 寛氏

今年横浜が開港して150年、東海道線が全通して120年。当時の横浜駅は港にあり、外国からの観光客横浜に上陸し鉄道に乗り換え日光へ直行したケースもあった。港と鉄道の結びつきは深く、横浜の発展は港と鉄道の相乗効果もたらしたともいえよう。

21世紀は世界的大交流時代という。アジアが中心になると言われている。なかでも国際観光をリードするのは中国となる。日本も、こうした流れに後れてはならない。

日本を訪れたい外国人は、3つの壁を感じるという。「遠い(ファー・イースト)」「高い(物価など)」「不安(言葉や慣習)」である。物理的に遠いことは仕方がないが、例えばビザ取得や入国手続きの簡素化で時間短縮を図れば、多少は緩和されよう。物価に関しても、1泊2食付きが定番となっている旅館が、外国人に高く感じさせているとすれば、これを改めることも検討されていいのだろう。「不

安」の面だが、言葉の壁は日本人(ホスト)の努力が必要だし、案内標識などの改善も求められる。

外国から日本に来てみたい動機を調べると、「日本人の生活ぶりを見たい」「日本食」「買物」「ハイテクなど日本の進んだ産業」などが上位にある。要するに、外国からのお客は、日本人のあるがままの姿に接したい、ということなのだ。

そこで提言したのは、外国人を自然な形で迎えもてなすような、日本人の精神改革というか精神革命が必要だということだ。横浜には外国からのクルーズ客が多く訪れる。「横浜は東京の一部？」と誤解している外国人も多いようだが、横浜市民として独自の横浜を印象付けるよう、大いに努力していただきたいと思う。

## クルーズを楽しもう

### 横浜港には歴史がいっぱい

日本船長協会会長 森本 靖之氏

横浜開港前の1853年と翌年、アメリカからペリー艦隊がやってきた、その時持っていた海図は水深がきちんと示されたものだった(プロジェクターで古い海図を示しながら)。しかも、彼らは日本の大砲



の射程距離が800<sup>ヤード</sup>しかないことを知っていて、沖合1000<sup>ヤード</sup>にイカリを下したという。ちなみにペリー艦隊の艦砲のそれは1600<sup>ヤード</sup>だった。

横浜港の発展は、当時の絵葉書にも残されているが、関東大震災前の山下公園はもっと内陸寄りだったことが分かる。震災の時に残骸などで埋め立て今の位置になったようだ。写真でも歴史が見えるが、1998年にオリアナ、Q E、飛鳥というクルーズ船3隻が揃って写っているのは珍しい。横浜港に係留されている帆船「日本丸」と客船「氷川丸」は、戦後、引揚船としても使われ、日本の海運の歴史を物語ってくれる。

もう一つ。横浜港国際客船ターミナルを作るにあたって、1994年にコンペが行われた。そのコンセプトは「庭港」というもので、42カ国から660点の応募があった。当選作は階段のないスロップで移動する建物で、突端には芝生の庭もある。目立たない建物だが、主役は客船ということなのだ。

ニューヨークのヴェラッツアーノ・ブリッジ、横浜のベイブリッジ、東京のレインボーブリッジの海面上の高さは、順に69.5<sup>メートル</sup>、56<sup>メートル</sup>、50<sup>メートル</sup>だが、6<sup>メートル</sup>の差でQ E は東京港に入れない。

いま、グアム旅行5万円とか大変安い旅がPRされているが、「何か忘れていませんか」と言いたいところ。ゆったりとしたクルーズにトライし、それが持つ“旅の心”を一度かみしめていただきたいものである。(プロジェクターで映しながらの話は大変興味深かった。文章にすると、その味が出ない。ごめんなさい=加納)

## 東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

### 観光立国を支える人たち

韓国観光公社東京支社長 吳龍洙氏

ウォン安で急激に観光客が増えているが、反動が怖い。じっくり粘り強く取り組むことが必要だ。



韓国観光公社東京支社長吳龍洙（ホ・ヨンソ）氏韓国・大邱市出身。80年3月韓国外国大学卒業。79年12月韓国観光公社入社。日本部長、福岡支社長、大阪支社長などを経て03年1月開発企画室長。カジノ事業団長、観光教育院長などをを経て07年3月に現職。54歳。

為替が急激なウォン安になって、観光客が増えていると聞いています。

08年10月30日に朝日新聞に一面で「行っとク！韓国へ」「今、ウォン安の韓国に」という宣伝をしたのをきっかけに日本から韓国への観光客が急に増えました。11月は23万人で前年比で13・3%増で12月は51・7%、1月は55・3%、2月は67%というように増えています。2月は28万人も来ており、大変な数字です。為替や広告効果やありますが、主婦の口コミが大きいと思います。グッチなどのブランド物が日本の3分の2の価格で買えるというのが魅力になっていると思います。急激に伸びるということは逆に落ちるということでもあり、不安材料でもあります。

このように観光客が増えた要因は為替だけではないでしょう。

実は私は日本の勤務が長い。07年3月に東京に来た時には韓国からの観光客は減っていました。サッカーなどの日韓のイベントが終わり、04年の冬ソナ効果や06年の韓国の俳優人気などが終わった。そこで07年9月から3本柱で観光の普及を図りました。07年4月からまず民放のテレビ東京に6分間のミニ番組を作り韓国の魅力を訴えました。日曜の夜11時から「韓国の宝探し」という題です。当初は効果はなかったのですが、07年の終わりころから反響が出始めました。2番目には旅行会社との提携です。近畿日本ツーリストと組んで「韓国への旅」を企画しました。近畿日本ツーリストは07年度に10%も売り上げが伸びたこともあり、他の旅行会社も始めました。3番目は韓国観光公社の前社長の金さんが当時の文化観光部の長官になりました。日本では観光大臣です。そこで日本と韓国の観光大臣会議を企画して当時の冬柴大臣が出てくれました。この会談で08年は日韓観光交流年に決めました。

このほかにも韓国への旅行を増やすようなことをしましたね。

08年6月には日本旅行業協会と協力することを決めました。山手線の外に10月から4週間韓国への宣伝

をしました。11月にはJTBの田川社長など主な旅行代理店の社長を韓国に招待して李明博大統領に会談をセットしました。残念なことに丁度、G20が開かれて李大統領には会えませんでした。が、国務総理が面談しました。世界文化遺産の宗廟などを見学してもらいました。いろいろな人が協力してくれたのでこうすることができました。（阿部 和義）

### JN協会が静岡空港見学を実施

ソウル2便、上海1便が就航

雨に洗われた茶畑の緑が初夏の陽を浴びて眩しいなか、富士山静岡空港へ急ぐ。バスには「JAPAN NOW 観光情報協会」の松尾理事長以下、大学教授・旅行作家・日本画家など多士済々の25人。空港は、平日にもかかわらず静岡・浜松ナンバーの車で、いっぱい。皆、機体をバックに記念写真を撮っており、待ち望んだ開港実現の喜びに溢れている。

まず、富士山静岡空港株の吉岡社長・森下取締役、沼田空港長から概要説明を受ける。そのなかで、「富士山静岡空港は、『そもそも論』から始まり、立木伐採問題まで幾多の障害があった。そのなかで施設もいきなり大きく建設できなかったが今後は『小さく産んで大きく育てる』気持ちで拡大していきたい。」と力強く語ってくれたのが印象的だった。



施設見学に移る。ターミナルビルは、最新技術で自然光をふんだんに取り入れ、照明用電力は、ほとんど必要のない設計、非常に明るい。また、貨物ターミナルは、「日本で一番小さく」、現在の取り扱い、水産物ではウナギ、工業製品では自動車部品など品目・数量とも限られている。しかし、静岡は愛知・東京について工業出荷額第3位、ポテンシャルはあるので路線が増えれば大きな期待が持てるとのこと。

この空港は、アジアに向けて建設され、開港時点で、ソウル2便、上海1便が就航している。アジア、特に中国は、これから、日本観光に本格的な火がつきそうな気配、そのなかで、富士山と北海道は大きな売りになっている。私は、90年代の初めにNHKの特派員として上海に駐在していたが、そのときの仕事仲間とは、今も親密な付き合いがある。この『老朋友』に、まず上海から富士山静岡空港に飛んでもらい、富士山観光を楽しみ、そのまま、北海道を案内すると言うコースが浮かんだ。7月1日から中国の個人観光ビザも解禁になり、上海の『老朋友』達と、この空港で久々に邂逅できる日も近いだろう。（JN会員 田阪友隆）



## 月島・有楽町 ツアー

Nuggets of Hospitality 持永 里絵

当日はホスト8人と韓国とベトナムの2名のゲストを迎え、総勢10名でツアーを実施しました。お昼ごはんをとるために月島にもんじゃ焼きを食べに行きました。商店街にはたくさんのもんじゃ焼き屋さんが並び、店の外に並んでいるお客さん達もみかけました。私たちも店に入り、もんじゃ焼きを頂きましたが、メニューの多さに驚かされました。それぞれが好きなもんじゃ焼きやお好み焼きを選び、初めに店の方が作り方を教えてくれましたが、その手際よく作る姿に真剣に皆見つめていました。ゲストさん達にとっても始めてのもんじゃ焼きみたいでしたが、皆でテーブルを囲み、一緒に作りながら食べるもんじゃ焼きはとてもは楽しく、美味しかったです。

また、店内はにぎやかで常連さんや元気のいいお店の人で下町らしさを感じられました。そして、食事の後に月島の商店街を少し歩いてみましたが、もんじゃ焼き屋をはじめ、駄菓子屋や昔ながらのお店が軒を連ね懐かしさを感じる一方でシャッターを降ろしている店舗がいくつかあるのを見て、商店街が衰退しつつあるのも感じました。

この後有楽町へ。

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

## JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。



今年4月に完成した2009-2010年度版は、日本全国のホテル約100館55,000室の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2009-2010年度版も、2010年に遷都1300年を迎える奈良平城京に焦点を

当て、日本文化と国家の原点を探る第1特集と、古代以来の日本人とメディアとのかわりを図版を中心に紹介する第2特集に加え巻頭インタビュー・ページでは、昨年ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏にご登場いただくという、多彩な内容となっています。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。電話 03-3536-1751 / FAX

## ソウルの地下鉄車内風景

昨年秋定年退職者のための国際福祉シンポジウムに招かれ、ほぼ30年ぶりに韓国を訪れた。その折り首都ソウル市内で初めて地下鉄に乗る機会があった。市内を縦横に走る地下鉄が市民の大切な足として、その重要性和高い利便性を誇っていることは、利用してすぐ分かった。

まず感心したのは、地下鉄が高齢者を優遇していることだった。65歳以上の乗客は何と運賃が無料なのである。どんな福祉サービスよりも実利的で便利な交通機関の無料サービスはお年寄りにとっては大助かりである。他の国鉄路線は3割引きの運賃(これでも会費なしで、日本の「ジパングクラブ」と同じ割引率)であるが、外国人である私も運賃無料の恩恵に与ることになった。

しかし、驚いたのは電車が駅を離れるや、物売りが車内に入れ替わり立ち代り現れては、こそそと小声で商売を始めることである。これには呆気にとられた。地下鉄から許可を得たのならともかく、ほかの外国の地下鉄だって商売をやるのは、大体駅構内に決まっている。ところがソウルでは禁制を犯して車内にまで乗り込んで来るのである。駅を発車すると物売りが大きなカバンから商品を取り出しそれをかざしながらセールスを始める。売れないと見るや、さっと店仕舞いをして次の車両へ移動していく。すると他の物売りがやってきて別の品物を手にセールストークを始めるのである。終戦直後の日本の満員列車の中でもそうだった。何となくノスタルジアを感じるから不思議である。

ガイドに聞くと地下鉄では時折係員が巡回しては排除しているようだが、ゴキブリのように現れては、違反の物売りと地下鉄の間で

민정환 가족처럼 함께 일할 뵈  
사무, 물품관리 및 보조원  
9시~5시: 36세 이상(초보가)  
동우산업 (02) 6261-5550  
남: 120~200만 원: 110~150만

(地下鉄でもらったチラシ)

イタチごっこが繰り返されているようだ。

座っていた私の隣のシートをふと見ると名刺大のチラシが置いてあった。ガイドに尋ねるとハングル文字で書かれた表面には「人材募集」と書かれてあった。これも禁じられた静かなセールスなのだろう。(近藤)

### 会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2009年9月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2009年9月25日。締め切りは9月10日。

### 【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

「世界遺産」物語……

## 世界遺産登録の取り消し

近藤 節夫

今年6月ユネスコ「世界遺産委員会」は、ある世界遺産の登録を取り消した。取り消し決定までには紆余曲折があったが、登録抹消というのは極めて稀でこれが僅か2例目である。

最初の登録抹消の際は、これほど大騒ぎにはならなかった。というより、その時はそれほど世界遺産ファンから注目も同情もされず、いわば愛想を尽かされた感じだったのである。今度の取り消しのケースは、国内はもとより世界中のファンが嘆いた登録抹消だったのである。

では、この二つの登録抹消の間にはどのような違いがあったのだろうか。

一昨年の最初の登録抹消はアラビア半島オマーンにある「動物保護区」である。1994年に登録されたこの動物保護区では、世界的に珍しいアラビア・オリックスが絶滅の危機に瀕していた。登録時には450頭が生息していたが、その後減り続け登録抹消時点で65頭にまで減ってしまった。その原因は土地開発による石油資源の掘削と密漁である。何と保護区用地の90%をオマーン政府が国家事業として堂々開発したのである。世界遺産委員会が目指す、世界的に珍しい絶滅奇種の保護の逆を行ってしまった。オマーン政府は自国の開発と利益を優先した確信犯だったのである。そこには自然保護や文化遺産尊重の理念のかけらも感じられない。すぐさま世界遺産登録の取り消しとなったのは当然の成り行きであり、どこからも同情の声は聞かれなかった。

一方今回登録抹消となった「ドレスデン・エルベ渓谷」は、取り消し決定までの間苦悩に揺れ動いた。中世よりエルベ川沿いに素晴らしい景観を誇っていたドレスデンが第二次世界大戦の災禍で灰燼に帰し、戦後見事に戦前の街を復興させたことに、世界中の人びとが喝采を送った。だが、畏敬の眼で見られたドイツ人魂が、現代文明の攻勢の前にもろくも屈服してしまったのである。2004年に登録された世界遺産は、僅か5年の短命に終わった。

取り消しの理由は、街を貫くエルベ川に巨大な橋梁をかけることが、景観を大きく損ねるというものだった。橋は朝夕の交通渋滞解消のための迂回路として、早くから計画されていた。ユネスコは橋の代わりにトンネルを建設して、景観を保護するという代替案を提案したが、膨大なコストがネックとなった。悩みぬいたドレスデン市は、最終的にその決定を住民投票に委ねた。その結果、市民は伝統的な美的景観よりも日常生活の利便性を選択し、自然保護派と世界遺産委員会は涙を呑んだのである。

この現実には現代に難しい課題を提起している。確かに世界遺産は素晴らしい。これを後世に残したいとの尊い気持ちは誰しも心の奥底に持っている。

しかし、現実にどこまでその気持ちを持ち続けられるか、また強い気持ち以上にその保全・維持のために費用をどこまで負担しきれぬのか、との課題は現代人に突きつけられた両刃の刃である。

浮かれて遺産登録したまではいいが、引き続き貴重な自然・文化遺産を保護しようとの真摯で強い気持ちがなくては、結局元も子も失くしてしまうのではないかと、年々盛んになる「世界遺産ブーム」が心配でならないのである。

### 新潟・水と土の芸術祭2009

水と土の記憶を呼び起こし、世界に発信する

7月18日から12月27日まで 新潟市全域で開催

新潟市には、信濃川と阿賀野川よりもたらされる日本一豊富な水と土から生まれた生活文化が存在します。水と土の芸術祭実行委員会は、市民が自らの生活文化の価値や魅力を、アートを媒介として見直し、国内外にその魅力を発信することを目的に、「日本海政令市にいがた 水と土の芸術祭2009」を7月18日から12月27日まで開催します。

当芸術祭では、国内外のアーティストにより、60余りのアートを市民や地域と協働で制作し、新潟市全域(726km<sup>2</sup>)で展示します。また、新潟市美術館、新津美術館、みなとびあ(新潟市歴史博物館)において、市民総参加で、水と土の生活文化を展示するかつてないスタイルの美術展を開催します。

地域では、伝統芸能、祭り、イベントを実施し、食やおもてなしの魅力をアピールします。ぜひ、大観光交流年の今年、新潟市にお出てください。

作品鑑賞パスポート料金

一般 2500円(前売2000円)/学生、65歳以上2000円(前売1500円)/小中高生800円(前売 500円)

パスポート(前売り)は、コンビニ等で販売中。

なお、新潟市東京事務所(03-5216-5133)でも販売しております。

パスポートは、新潟市美術館などの単館チケットより非常にお得な料金設定。前売のパスポートを購入すると通常より半額以下となります。

お得な情報

10月から、JR東日本等が実施する「新潟ディステーションキャンペーン」により新幹線や宿泊がセットになったお得な商品も予定されています。

お問い合わせ

水と土の芸術祭実行委員会事務局

TEL 025-226-2627 / FAX 025-228-6188

E-Mail koryu@city.niigata.lg.jp

ホームページもぜひご覧ください。

<http://www.mizu-tsuchi.jp>



## 城下町と観光

## 柳川城

## 立花宗茂が柳川藩の基礎を築く

## 北原白秋が育った水郷の街

JN協会参与 長宗我部 友親

「私の郷里柳河は水郷である。そうして静かな廃市の一つである。自然の風物は如何にも南国的であるが、既に柳河の街を貫通する数知れぬ溝渠のには、日に日に廃れゆく古い封建時代の白壁が今なほ懐かしい影を映す。」



「からたちの花」など多くの童謡も書いた詩人、北原白秋が「抒情小曲集 思ひ出」の序文「わが生いたち」の中で、故郷、柳川について、述べている部分である。造り酒屋の白壁が陽光にまぶしく光る柳川の風景とともに、白秋の柳川の街に寄せる思いが

よくわかる。

柳川の街に入ると鰻のにおいが、鼻を突くが、柳川の街の中心は、やはりなんといっても、人工の掘割が形成されている柳川城である。

この城は旧くは蒲生治久（がもう・はるひさ）が、その原型を築いた。そして、柳川城には、この蒲生氏のあと龍造寺氏が入り、その後立花宗茂が城主として入城した。

しかし、立花宗茂は関ヶ原の戦いで西軍についたため、田中吉政（たなか・よしまさ）とその子、忠政（ただまさ）が一時治める。だが、その期間は短く、再び立花宗茂が、城主とし返り咲く。それだけ、宗茂には実力と人望があったのだろう。

それ以降、柳川は立花氏の城下町として、幕末まで続く。



空襲警報看板や消火バケツ、防空頭巾を展示する昭和館

## NEW SPOT

## 空襲警報発令

in japan

戦中戦後の庶民生活を実物資料で展示する昭和館（東京・九段下）が7月リニューアルした。昭和10～30年ころの暮らしを、茶の間や井戸端から出征、配給、疎開、そして戦後の引き揚げ、闇市、バラック生活や、電化など復興の息吹きまで展開する。10年前に開館し厚生労働省所管で日本遺族会が運営する。模様替えは4回目。年間28万人が訪れ小中学生の社会見学が多い。

今回リニューアルのポイントは「銃後の備えと空襲」コーナー。灯火管制のもと、実寸大模型の防空壕に入ると空襲警報のサイレンが鳴り、瞬間、焼夷弾が落ちる爆音と地響きが体にじかに伝わり、戦争の恐怖を疑似体験する。パソコンによる資料閲覧コーナーも充実した。

戦争体験の労苦を伝える施設は全国に多数ある

が、東京だけでも、昭和館近くの戦傷病者史料館「しょうけい館」（厚生労働省所管、運営・財団法人日本傷痍軍人会）は戦傷病者らの体験資料を展示し、新宿の平和祈念展示資料館（総務省所管）は独立行政法人の運営で、恩給欠格者、強制抑留者、引揚者らの苦難を訴える。これら各館を分散しない統一した総合資料館があれば体験がより深く人びとの心に刻まれるだろう。

江戸東京博物館（東京都所管）、下町風俗資料館（台東区所管）などにも戦中戦後コーナーがあり、戦禍甚大だった江東区北砂にある東京大空襲・戦災資料センターは民間の募金で設立された貴重な活動・展示だ。（写真・文 林 莊祐）

NPOから提案します

北海道・東北への入込域外客数の再認識  
高崎経済大学観光政策学科教授 寺前 秀一

1853年に約6万4千人だった北海道の和人人口は562万人に達し、東北6県の総人口は963万人となっています。この北海道、東北を欧州諸国との比較で概観すると、北海道はフィンランド等欧州の一国に相当する規模の地域経済社会を形成するに至っています。東北6県は面積でチェコと同程度の広さです。総人口はスウェーデンとほぼ同規模です。東北6県の県民総生産の合計は32兆4200億円とスイスなどのヨーロッパ中堅国のGDPを超えています。

北海道、東北を欧州諸国と比較する意味は、国際的水準では先進諸国レベルの水準にあるとの認識を強調するところにあり、関係者の各種調査報告書等はこの認識のもとに記述をしています。同時に観光面での記述において、外客数が極めて少ないとの認識が強調されています。しかしながら、北海道の道外入込客数は649万人とベルギーを訪れる外客数700万人とほぼ同程度です。「北海道観光のくにづくり

行動計画」の目標値である道外客900万人、外客数110万人が達成されると、ポルトガルの外客数1130万人規模になり、北海道は人流規模において欧州先進諸国に劣らないものであることが改めて理解されるはずですが。

北海道にとっての有力観光市場をひかえる羽田と札幌の距離は約870キロであり、欧州諸国にとっての有力観光市場であるドイツの首都ベルリンからロンドンまで900kmであるところから、北海道が観光施策を単なるスローガンに留まらず経済政策として遂行するのであれば、国際観光客誘致に注力する施策は費用対効果分析を含め検証が必要です。

東北6県については、延べ宿泊者数に平均的域外客率を乗じて得た数値で推測すると1100万人となり、スイス規模の域外客数を宿泊ベースで確保しているということになります。東北においても国籍に着目した域外客をことさら注目する姿勢の見直しが必要であり、むしろ首都圏マーケットの顧客を重視した政策にシフトする方策もあらためて検討すべきでしょう。

イタリア通信 その10

ミラノの夏休み事情

不況でもバカンスは必至

蒸し暑いミラノは「過疎地」となる

7月に入るとイタリアではどこにいても話題は夏のバカンスの話となる。テレビをつけても、大勢の海水浴客で賑わう各地の海、帰省客などで混雑する高速道路の映像が入ってくる。

この経済不況・消費低迷の中で、今夏のバカンス動向には注目が集まっていたが、業界団体などが6月中旬に実施した予測調査では、この夏、バカンスに旅立つイタリア人の数は3750万人で昨年の3370万人より人数では11%上昇する。もっとも、日数は短縮、国内旅行が増加し外国旅行が減少、したがって旅行費用も2008年の一人当たり平均1056ユーロに対し、2009年は平均946ユーロと削減するなど、節約志向が顕著にでている。

イタリアでは小中学校から大学まで6月中旬には授業が終わり、新学期は9月中旬。子供や若者たちは丸まる3ヶ月の夏休みとなる。勤め人たちも、6月下旬から9月初頭の間、平均して3週間の「休暇」をとる。これは法律で1年につき4週間の有給休暇が保証されており、雇用者側は「従業員に休暇を消化」させることが義務付けられているため、会社側も、夏に3週間は休暇をとらせないと繁忙期の年度末に従業員に「強制的に自宅待機」を命じる必要がでてくる。したがって一つの職場でもスタッフが交代で休暇をとる。1週間ごとを3回に分けるものもあればまとめて3週間とるもの、あるいはコマ切れ型とさまざまだ。会社



や工場全体をクローズする期間は、日本のお盆の時期と合致する「聖母被昇天の祝日」の8月15日の前後1週間から10日間程度のところが多い。つまるところ、同じ職場でも誰かが必ず休んでいるわけで、7月、8月は正式な意思決定などはしづらい状況となる。

観光客や帰省する人の多い海辺の街や湖畔の避暑地、緑あふれる山々、珠玉の文化都市、南イタリアなどはこの時期が「ハイシーズン」と

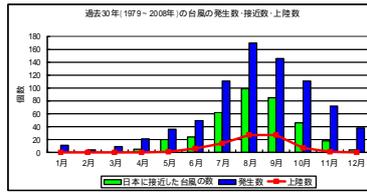
なり人々で溢れるが、蒸し暑いミラノなど北の都会は、8月ともなるとまさに「過疎地」となる。バカンスに行く人、別荘に行く人はすべて行ってしまい、残るのは、行くところのない人や高齢者、そして移民の人々が主役となるからだ。市内の商店、レストラン、コーヒーショップなど大半はクローズ。クリーニング屋も美容院も休みだ。食料品など日常の買い物は、「開店保証」されているスーパーマーケットがたよりとなる。大聖堂のあるミラノ中心部は観光客が来るので店舗や飲食店など多少は開いているが、ミラノの街に日焼けした「ミラネーゼ」が戻り、街に活気がでてくるのは8月末から9月初旬だ。

## 台風シーズン到来

大きな気象災害をもたらすのが台風です。台風とは気象庁が定める定義によると、「北西太平洋に存在する熱帯低気圧のうち、低気圧域内の最大風速がおよそ17m/s(34ノット)以上のもの」を台風と称しています。

では、台風は一年間にどれくらい発生し、そのうちどれくらい日本に接近、上陸しているのでしょうか。平年の発生数は26.7個、接近数は10.8個、上陸数は2.6個ですが、実際に過去30年間(1979~2008年)の月別の台風の発生数と接近数、上陸数を図に示しました。発生数は7~10月が飛びぬけて多くなっています。このうち日本へ接近するのは7~9月が多く、この3か月の発生数に対する接近数の割合は約58%と、発生した台風の半分以上が日本へ接近しています。そして上陸するのは8月と9月が多く、両月とも過去30年間で27個上陸しています。過去の例からみてもこれ

からが台風上陸に警戒の月になります。テレビ、新聞などで台風の接近を知ったら、雨戸の確認、庭に置いてある鉢類は家に取り込むなどして強風に対する備えや、大雨による洪水などが発生した場合に備え、避難場所の確認を早めにしたほうがいいでしょう。



また増水した河川へは近寄らないようにしましょう。防災グッズも確認しましょう。備えあれば憂いなしです。

なお、台風は発生順に番号で呼ばれていますが、大災害をもたらした台風には名前がついています。過去には洞爺丸台風、伊勢湾台風、枕崎台風、室戸台風などがあります。今年は名前のつくような台風が来ないことを祈りたいですね。

日本気象協会 金野 雅之

## 会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三(映画監督)  
 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)  
 顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)  
 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JT専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)  
 支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森伸吾(東北)、大田哲哉(中国)

## 【団体会員】(2009年07月24日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)HKリアクス、(株)エイブルシステムズ、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ハレヅ、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャンドウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマサハサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常磐興産ビルシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)グアイエコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲研、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、ネスレコンフェッショナル(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロクジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、フナネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマルックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんファイオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

## 特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます!

# JAPAN NOW

観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13  
 小田急代々木ビル3F  
 電話 03(5304)9500  
 FAX 03(5304)5632  
 E-mail info@japannow.org  
 Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)  
 編集長: 白澤照雄(JN協会事務局長)  
 発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

## 編集後記

JN協会の情報発信源である「JAPAN NOW」(隔月刊)は加納編集長のもとで順調に編集・印刷が進み、会員からもご好評をいただいたが、加納さんから当分編集長を辞退したい、との申し出があり7月号から私と首藤さんがコンピューター編集に挑戦することになりました。7月号はページ数を12ページから8ページに減らして何とか作成しようと思案しました。コンピューター編集は約束事が多く、手間がかかるが、コンピューターに詳しい首藤さんの協力に期待。常連の執筆者である寺前、阿部、近藤、林、大島慎子、長宗我部、堤、竹内、大島悦子さんや気象協会、立教大学にはこれまで通り力作をお願いしたい。評価の高かった全国の市長とその地方の老舗旅館や料亭の女将をインタビュー形式で紹介した「観光人国記」は当分お預けとします。ホームページは従来そのままです。(白澤)